

況をお示ししております。
Q 市の広報紙またはホームページ等で、半年に1回程度、取り組み状況の情報を提供してはどうか。

A 市長 とりあえずは、年1回の報告を基本としたいと思います。

Q 情報を出すために、例えば、A：達成済みまたは実施済みのもの、B：順調に取り組みを進めているもの、C：事業の検討や計画を開始したものの、D：着手していないもの等として、情報を出してはどうか。

A 市長 市民にとって理解しやすい形を検討していきます。

Q 今後、老朽化した施設の建てかえを市民に約束したが、現在の位置に建設するのか。
A 市長 現段階でどうするかを確定しているわけではありませんし、私1人の判断で決めていくものでもないと考えています。

Q 検討委員会を設置するということだが、

検討委員会で、場所等も課題にするのか。
A 市長 どの辺の場所に建てるのかは、早急に結論が出るかどうかはわかりませんが、検討していく必要があるかと思っております。

また、現在は建設費がかなりの高水準にあるので、時期的な問題については、オリンピック後になるのかもしれない。東千葉メデイカルセンターとの連携の問題も出てきています。二次救急まではさんむ医療センターで担えるようにしておくべきだと思いますが、その二次救急と、これからの高齢社会への対応、保健福祉とのつなげ方も含めて、病院の業務の内容やあり方を、病院内でも話し合い、将来どのような医療を提供することが適当なのかという議論をしていただきます。それらをもとにして、検討委員会でも、方向性を定めていく必要があるかと思っております。

Q 病院の敷地の賃貸契約期間はどのようになるのか。
A 市長 平成30年に契約期限を迎える地主



建てかえなどが検討されるさんむ医療センター

さんが一番大きな地主さんですが、全部ではありません。また、それまでに建てかえることはなかなか難しいかと思っております。更新をお願いしていかざるを得ないと思っております。

Q 地主さんへの対応は、どのようにしていくのか。
A 市長 御理解をいただく方向で努力をしていくしかないと思っております。

Q 内科医師について、亀田病院との医師派遣の協議はどうか。
A 市長 現在は病院間で進めています。次年度に向けて、病院間の話の中で、実現できるのではないかと考えています。

Q 以前、地元から出ている医師を調査し、アプローチしたらどうかという質問をしたがどうか。
A 市長 さまざまな聞き取りをして、可能性のあるところにはお話を持っていくしましたが、なかなか難しかったという事です。

Q 山武長生夷隅地域は、県下でも一番医師数が少ない。医師の確保についてはどうか。
A 市長 現実に医師1人を新しく獲得するのは、大変なことだと思います。亀田病院と一定の契約をして、長期にわたってお願いをしていくればということをして、1つの選択肢として現在取り組んでいるということだと思います。

Q こども園の案内板に検証したか。
A 保健福祉部長 なるのは、大変なことだと思います。園は、保護者会が卒園記念として園の名前を表示した看板をフェンスに設置しました。国道側からの案内看板についても、設置に向け、再度検討していかたいと考えています。

Q 特定健康診査の結果、生活改善が必要になった方には、特定保健指導を行っていますか。
A 特定健康診査の結果、生活改善が必要になった方には、特定保健指導を行っています。

Q 市の普通財産の土面積があるか。
A 総務部長 平成25年度決算ベースで、22万4千23平米、約22.4ヘクタールを保有しています。

Q 遊休地の面積はどれくらいか。
A 総務部長 貸付地以外の遊休地面積は、13万1千97平米、約13ヘクタールです。

Q 今後の活用計画はどうか。
A 総務部長 基本的な考えとしては、有効かつ具体的な土地利用がでない資産については、処分をしていきます。財産の状況を把握し、利用見込みのない土地については、売却等を進めています。

Q 遊休地の面積はどれくらいか。
A 総務部長 貸付地以外の遊休地面積は、13万1千97平米、約13ヘクタールです。

Q 今後の活用計画はどうか。
A 総務部長 基本的な考えとしては、有効かつ具体的な土地利用がでない資産については、処分をしていきます。財産の状況を把握し、利用見込みのない土地については、売却等を進めています。